

展覧会
2019.4
2020.3

2019. 4/4(木) - 4/11(木)

休館日: 4/8

「僕は迷路を行ったり、来たりする—」
変貌の画家 三岸好太郎

アートギャラリー北海道
mima-no-me
#みまのめ(VOL. 4) 木全佑衣/佐藤歩惟

観覧料

一般 510円 (420)
高大生 250円 (170)
中学生以下 65歳以上 無料



《兄及び彼ノ長女》1924年

2019. 4/24(水) - 7/4(木)

休館日: 月曜、5/7
* 4/29、5/6の月曜は開館

道化に魅せられて

1928年より5年にわたり描いた道化シリーズをクローズアップしながら、10年余りの三岸の画業を紹介します。

観覧料

一般 510円 (420)
高大生 250円 (170)
中学生以下 65歳以上 無料



《道化》1930-31年頃

イベント

所蔵作品の展示解説

解説: 北海道美術館協力会ボランティア
日時: 火~土曜日(祝日と午後イベントのある日を除く)の午後1時~3時
* 事前予約の団体には上記の時間以外にも解説します。10日前までに011-644-8901へお電話ください。

音楽会



三岸好太郎の代表作《オーケストラ》にちなみ、展示室で音楽会を開催します。

[今年度の予定]
芸術週間美術館コンサート: 11/2(土)
ミニ・リサイタル: 5/25(土)、6/29(土)、7/19(金)、10/12(土)、2/8(土)、3/14(土)

マール記念日



[今年度の予定]
12/21(土)
当館が舞台の絵本『おぼけのマールとちいさなびじゅつかん』(え・なかのいれい ぶん・けーたろう 2008年 中西出版)にちなんだ楽しいイベント。

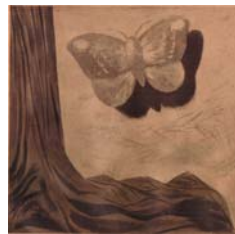
○このほか、講演会や土曜セミナー、子ども向けのプログラム等を予定。詳細は随時、ホームページやチラシ等でご案内します。
○都合により、日程・内容等を変更することがあります。

2019. 7/13(土) - 9/4(水)

休館日: 月曜、7/16、8/13
* 7/15、8/12の月曜は開館

まぼろしミギシとともに

所在不明や亡失してしまった「まぼろしミギシ」作品の数々。それらの画像パネルや当時の展覧会評を現存する作品とともに紹介し、三岸の変転しつづけた画業を丁寧に紐ときながら探ります。



《ピロードと蝶》1934年 *参考図版

アートギャラリー北海道
フランク・シャーマン コレクション
—あるアメリカ人を魅了した浮世絵

GHQの印刷・出版担当官として1945年来日し、12年間日本に暮らしたシャーマン。日本美術を愛好した彼が魅せられ、収集した歌川国貞(三代豊国)や歌川国芳などの浮世絵25点を展覧。



歌川国貞(三代豊国)
《近世水滸伝 夏目子借新助 岩井余三郎》
河村泳静氏蔵(伊達市教育委員会寄託)

観覧料

一般 510円 (420)
高大生 250円 (170)
中学生以下 65歳以上 無料

* 7/17(道みんの日)は観覧無料!



アートでつながる、北海道。

[アートギャラリー北海道]は、道内の美術館がネットワークでつながるとともに、若い作家たちへの活動の場の提供などによって、北海道全体がアートの舞台となることを目指す取組みです。

特別展 2019. 9/14(土) - 12/1(日)

休館日: 月曜、9/17、24、10/15
* 9/16、23、10/14、11/4の月曜は開館



《雲の上の蝶》、《蝶》、《海と射光》
(筆彩素描集「蝶と貝殻」より) 1934年

三岸好太郎と幻想のイメージ

晩年、シュルレアリスム(超現実主義)風へと至った三岸好太郎。絵画を中心に、詩作やデザインなどの多岐にわたる生涯の作品を、「幻想」をキーワードに見つめます。シュルレアリスムの画家ダリやマグリットの版画作品もあわせて展覧します。

アートギャラリー北海道
mima-no-me
#みまのめ(VOL. 5)

北海道の若い作家の多彩な表現を紹介するシリーズの5回目。

特別展観覧料

一般 610円 (500)
高大生 360円 (250)
小中生 250円 (200)

* ()内は10名以上の団体料金。
* リピーター割引、ファミリー割引もあり
(詳細はお問い合わせください)。

2019. 12/21(土) - 2020. 4/12(日)

休館日: 月曜、12/29~1/3、14、2/18~20、25、3/31、4/1~3 * 1/13、2/24の月曜は開館

子どもと楽しむmima

子どもから大人まで楽しむmima(みま/三岸美術館)に親しむ展覧会です。会期中には「たんけん美術館」も開催!

観覧料

一般 510円 (420)
高大生 250円 (170)
中学生以下 65歳以上 無料



《金魚》1933年(寄託作品)

【特別展をのぞく展覧会の観覧料について】

* 中学生以下、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方等は無料。
* 高校生は5/5(こどもの日)・特別展会期中を除く土曜日ならびに学校の活動での利用は無料。
* 道立近代美術館「近美コレクション」との共通券もございます。詳しくはHPをご覧ください。
* ()内は10名以上の団体料金。
* 休館日を変更することがあります。

mima

MIGISHI KOTARO MUSEUM OF ART, HOKKAIDO
北海道立三岸好太郎美術館
홋카이도립 미기시 고타로 미술관



MIGISHI KOTARO (1903—1934)

Migishi Kotaro was born in Sapporo in 1903, and died at the age of 31 in 1934. He continued to change his style of painting throughout his short life as an artist, reflecting contemporary trends in art. But as well as his ambitious ventures into new styles, his own poetic sentiment and delicate sensibility, found in all his works, make him a prominent artist in the history of modern Japanese art.

His early works with a naive predilection such as "A Girl holding a lemon" (1923) and "Brother and his eldest daughter" (1924) were widely appreciated and drew much attention. Traveling China in 1926, he was stimulated by the European culture in the colonial city of Shanghai. That led him to sublimate his romantic nature to a series of works depicting clowns and marionettes with touches of Fauvism from 1928 to 1932. From the end of 1932, interested in Avant-Gard painting, he tried the abstract style, and a remarkable method scratching a thick-painted surface "Orchestra" (1933).

In his last year, he showed an inclination to Surrealism, particularly painting butterflies and seashells. Just before his death, he set about building his atelier. Before its completion, however, he succumbed to disease.

三岸好太郎(1903—1934)

三岸好太郎は1903年出生于札幌，于1934年去世，享年31岁。《手捧柠檬的少女》(1923年)、《兄长及他的长女》(1924年)等表现出朴素派倾向的初期作品广受好评，倍备受瞩目。1926年去中国旅行，在上海租界受到了欧洲文化的刺激。这个经历提升了他浪漫的气质，并于1928~32年期间诞生了以野兽派风格的笔触描绘小丑与提线木偶的一系列作品。从1932年末起，他对前卫画感兴趣，尝试了抽象风格，看起来如《管弦乐》(1933年)般，刮乱绘画颜料的表面这一特殊方法。最晚年，他倾向于超现实主义，特别是描绘蝴蝶与贝壳。在就去世前，他着手建造工作室。但是在即将竣工前，却病倒了。他在作为画家的短暂人生中，反映同时代的美术思潮而不断改变了画风。但也不断果敢地挑战新风格，在所有的作品中都能看到他独有的诗情画意与细腻的感受性，因此他成为日本近代美术史中杰出的代表。

미기시 고타로 (1903—1934)

미기시 고타로는 1903년 삿포로에서 태어나 1934년 31살로 세상을 떠났습니다. "레몬을 손에 든 소녀"(1923년)과 "형과 그의 장녀"(1924년)등 소박파에 대한 경도를 보여주는 그의 초기작품은 널리 평가되어 주목을 받았습니다. 1926년에 중국을 여행하며 상해 조계에서 유럽문화의 자극을 받았습니다. 그 체형은 그의 로맨틱한 자질을 승화시켜 1928-32년 아수파식 터치로 어릿광대와 마리오네트를 그린 일련의 작품이 태어났습니다. 1932년 말부터는 전위회화에 관심을 갖고 추상적인 스타일, 그리고 "오케스트라"(1933년)에서 보여지는 것처럼, 그림 물감의 표면을 긁는 독창적인 수법을 시도했습니다. 만년에는 초현실주의(슈레알리즘)에 빠져들어 특히 나비와 조개껍질을 그렸습니다. 세상을 뜨기 직전에 아틀리에 건설에 착수하였으나 완성을 보기도 전에 병상에 누워버렸습니다. 그는 화가로서 짧은 생이었지만 동시대의 미술사조를 반영시키며 화풍을 계속 바꿔갔습니다. 그러나 과감하게 새로운 스타일에 도전함과 동시에 그의 모든 작품에서는 독자적인 시적 감각과 섬세한 감수성을 볼 수 있으며, 그로 인해 미기시 고타로는 일본 근대미술사의 걸출한 존재가 되었습니다.

Migishi Kotaro Museum of Art, Hokkaido©2019